# ひとを育てる活動

## カレッジ奨学生の現況

**＊　教師になりたい　！　アイリーンの直訴　＊**

「ホテル・レストラン経営コースは自分の希望ではなかった。4 年制の初等教育コースに入り直して小学校教師を目指したい」

今年のカレッジ奨学生新規受け入れ数は 5 名です。この直訴をしたアイリーンは、奨学金で 3 月に専門学校を卒業したばかりで対象外です。奨学生決定は原則 CMIP 選考委員会に任せていますが、懇願されて困った CMIP がノーをいう役回りを HANDS に振ったようです。

メリアンを筆頭にエドウィン、フランシスと国家試験に合格し、公立の教師に採用される先輩が増えました。そのため初等教育課程進学希望が増えています。頑張れば手が届く目標ができたのはいいことですが、アイリーンの場合はカレッジ奨学金の機会均等という点でも認めるわけにはいきません。一度働いて少し蓄えを作ってから奨学生に応募し、初等教育科に進んでも遅くないと励ましました。「アイリーンは明るく元気で背も高い。スーパーで雇ってもらえるよ」 昨年まで奨学生担当だったリコの言葉に安心しました。

**＊　医師の夢は捨てないが、まず家族のために　＊**

ミアソンの公立ハイスクールをトップで卒業し、医師を目指してきたアナリン(写真左。右は MSU 初等教育科4年のマリナ)。貧しい家族が待っているので、卒業したら国家試験を受けてまず公立学校に就職したいという相談がありました。よい成績を維持しているものの、医師への道のりは長く、必ずなれる保証もありません。

同じく来年 3 月卒業のアグネス、チェリル、クリストファーも教師や会計士になるには国家試験の受験とそのための支援が必要なことが分かりました。それぞれ悩み、頑張っている姿を長年見つめてきました。成績次第では、全員応援したいと思います。

## ダタルサファン分校の給食

始業式の日の給食は、11 時過ぎに始まりました。

調理は、ただ 1 人の教師であるロバート先生のスタッフハウス炊事場で、お母さんたちが交代で担当します。この日のメニューは大盛ご飯に、ココナツミルク、ヤングパパイヤ、ツナ缶入りスープをかけたものでした。小さな体に山盛りご飯。いつもその量に驚きます。今回分校からクルファンディ水道建設現場までの山登りを体験して、子どもたちが毎日の通学に費やすカロリーがいかに大きいか実感できました。たくさん食べて！と言いたいですが、今年度の予算は会員やボランティアグループ・野のゆり会のご寄付と WE21 ジャパンさいわいの支援金で 300 人分 26 万円です。お母さんたちのやり繰りに期待しています。

この日 6 月 11 日は 5 月の総選挙で当選したティボリ町新町長による住民感謝デーで、お米が各家庭に配布されました。しばらくはご飯弁当を持参できそうです。

給食事業は今年6年目を迎えます。低体重児減少、学力向上などの評価を予定しています。

## ブラクール校・先住民族学校の総合教育
－ そ　の　後 －

1年目は学力向上と職業教育、2年目で就学前教育の開始、3年目は民族楽器の練習と、毎年新しいプログラムを加えて実施した助成金事業は、前号でもご報告のように一定の成果を上げて終了しました。

教材や備品、建物はそのまま使えますが、事業で教師給与を出していた就学前教育(幼稚園)の継続が課題でした。結局1年生担任のアナベル先生の兼任で決着しました。縫製実習の生地代などは例年のクリスマス寄付の前倒しで対応の予定です。住民組織と教師を信頼して見守りたいと思います。